

研修報告書 No. 6

所 属： 国立国際医療研究センター病院

研修先： 渭南病院、大井田病院、沖の島診療所

7月17日から8月24日にかけての合計6週間、高知県幡多地域で地域研修をさせていただきました。この6週間では、はじめに渭南病院で2週間、大井田病院で2週間(うち2日間は沖の島診療所)、その後再度渭南病院で2週間研修させていただきました。

現在私は初期臨床研修2年目であり、普段は東京都内の700床近い大規模急性期病院で初期研修を行っております。そうした病院では設備や医師・医療関係者の数も非常に多い環境に置かれていたため、この地域医療研修以前は他の病院や地域の病院がどのような状況であるのか、どのような医療を行っているのか、明確なイメージを持てておりませんでした。

今回研修させていただいた病院はそれぞれ渭南病院が105床(急性期20床、地域包括ケア30床、療養55床)、大井田病院が93床(地域包括ケア50床、療養43床)となっており、渭南病院がある土佐清水市は人口1万3000人規模で救急科のある幡多けんみん病院まで車で約1時間程度、大井田病院がある宿毛市は人口2万人規模で幡多けんみん病院まで車で15分程度と同じ幡多地域の中でも、置かれた状況は異なっていることを体感しました。それぞれの地域において、病院が求められる役割を十分に理解し医療を行うことの大切さを感じることができました。

地域研修における具体的な研修内容としては、先生方のご指導のもと、外来業務・訪問診療・往診といったことを主に行いました。これら業務を通じてまず感じたことは、普段東京でみている患者さんと比較して年齢層が10歳・20歳上であること、そしてそうした患者さんが未だに畑や漁にでて現役で仕事をしていることでした。高齢者の方々もいまの地域の生活を支えている一部であり、いかに仕事のできる生活を保ってあげられるかも大切であると感じました。入院中の患者さんについても、退院後の生活のことまで深く考え、できるだけ自宅で生活を送れるように環境の調整や在宅医療にも積極的に取り組んでおり非常に勉強になりました。一方で、医師の数が十分でないことで診療科を常に揃えることができず、例えば小児科医がおらず小児科のある病院まで時間をかけて通わなければいけないなどの地域の問題もあり、対応を考えていく必要があると感じました。

こうした業務に加えて、訪問看護や住宅評価に参加させていただき、看護や介護の面でどのように患者さんの生活に介入し支えとなっているのかを見させていただきました。また、私が高知県に向かう直前に豪雨災害があったこともあり保健所で災害対策の話を伺うなど、非常に貴重な経験をさせていただきました。

また、沖の島診療所での研修では人口も120人程度で島という性質上移動の上下も多く、生活の大変さを身を持って経験するとともに、診療所の限りある設備や頻回にフォローで

きない状況の中で医療を行う難しさを学ぶことができました。

特に地域研修の中で非常に印象に残っているのが、院長先生から「今みている医療は 10 年、20 年後の東京・日本の未来の姿だ」という言葉をいただいたことです。先進医療を行うことももちろん非常に大切なことと考えておりますが、こうした地域研修を通して、やはり高齢者の方が多くなっていること、今までは入院でみていた患者さんをいかに自宅でみてあげられるようにするか、といったことが今後考えていかなければいけない課題であることを感じ、将来的にはこうした包括的な視点でも貢献できるようになりたいと思います。

最後になりますが、6 週間と研修 2 年間の中では非常に短い期間ではありましたが、未熟な私を温かく迎えていただき、親切に対応してくださった渭南病院、大井田病院、沖の島診療所の先生方、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。以上をもって私の地域研修の報告とさせていただきます。